

平成21年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マガレイ

学名 *Pleuronectes herzensteini*

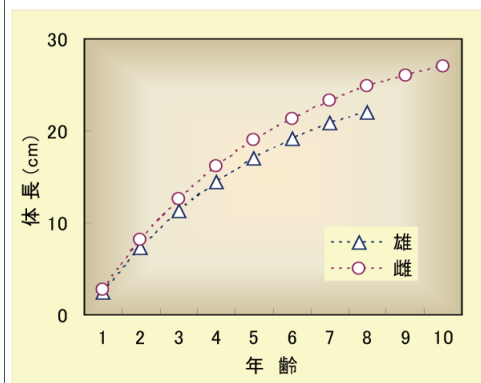
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雌10歳、雄8歳
成熟開始年齢: 雌3歳、雄2歳
産卵期・産卵場: 新潟県沿岸で2～5月(3～4月が盛期)、産卵場は水深50～90m付近
索餌期・索餌場: 夏～秋季に沖合の陸棚上
食性: 多毛類、二枚貝、小型甲殻類
捕食者: 不明

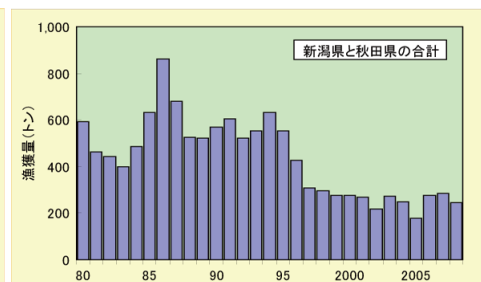
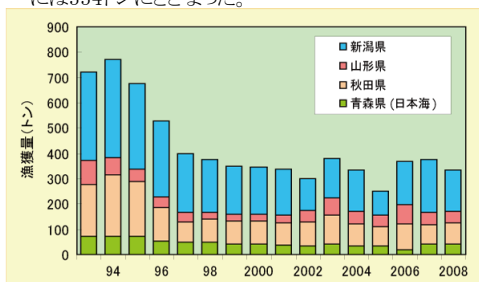


漁業の特徴

日本海北部でマガレイを対象としている主要漁業は、底びき網漁業と刺し網漁業である。その比率は、漁獲量(2008年)でみると底びき網漁業で68%、刺し網漁業で23%となっていた。県別には、新潟県と秋田県の漁獲量が多い。

漁獲の動向

1980年以降の資料がある新潟県と秋田県では、1986年と1994年に漁獲量のピークがあり、その後減少したまま現在に至っている。全域の漁獲量が把握されるのは1993年以降に限られるが、1994年の770トンを経過に減少し、2005年には最低の251トン記録した。その後、2006年には368トン、2007年には378トンとやや増加したものの、2008年には334トンにとどまった。

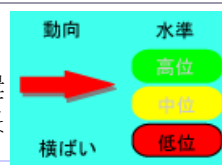


資源評価法

マガレイは農林統計の全国集計対象種ではないので、系群全体の漁獲量を正確に把握する統計データが無い。したがって、日本海北部4県の漁獲量の経年変化を用いて資源の評価を行った。資源の動向を判断する参考として、沖合底びき網漁業、新潟県の板びき網漁業及び幼稚魚分布調査の結果を用いた。

資源状態

漁獲量および底びき網のCPUE等の経過から、1990年代後半以降の資源状態は低い水準で増減していると判断される。2005年に漁獲量は最小値を記録したが、2006年と2007年には漁獲量が増加し、CPUEも多くで高い値を示した。しかし漁獲量、CPUEともに2008年には低下から横ばいへ転じ、回復傾向に継続性が無い。新規加入量調査からは高い豊度の年級群が2006年と2007年に加入する事が予測されたが、これらの高い年級に比べて2008～2010年に加入する年級群の豊度は低く、2010年の資源状態が好転する可能性は低い。



管理方策

資源水準は低位で横ばい傾向にある。本種は底びき網や刺し網で主に漁獲されるが、これらの漁業ではマガレイは必ずしも主対象の魚種でないことが多く、本種単独での漁獲量の制限は困難であるが、漁獲量の上限をある程度おさえることで、特に3歳魚の生き残りを増やし、翌年の漁獲加入年級への負担を減らすとともに、産卵への加入を少しでも増やすことが必要である。

	2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	290トン	0.8Cave3-yr	—	—
ABCTarget	230トン	0.8・0.8Cave3-yr	—	—

- 10トン未満を四捨五入

資源評価のまとめ

- 漁獲量等の情報から、資源水準は低位、動向は横ばい傾向と判断される

- 2009年と2010年の加入量に多くは期待できない

管理方策のまとめ

- 資源水準の回復と維持のためには、漁獲量の上限をある程度おさえることで、漁獲と産卵に加入する3歳魚の生き残りを増やすことが必要
- 水産庁では2003年7月に「資源回復計画」を作成

資源評価は毎年更新されます。